

2022年2月3日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## スマートフードチェーンプラットフォームを活用した実証実験を開始

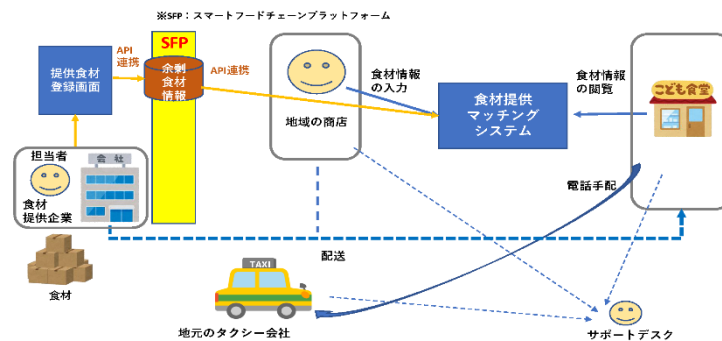
～国・地方自治体・民間企業・NPO・大学が連携し、  
子ども食堂のマッチングシステムにかかる取り組みを推進します～

慶應義塾大学 SFC 研究所（神奈川県藤沢市所長：飯盛義徳）は、食品ロス削減に資する仕組みづくりの一環として、子ども食堂の DX による効率化に向けた実証実験に、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）において構築している「スマートフードチェーンプラットフォーム」を提供します。

※ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）は内閣府が科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクトです。慶應義塾大学 SFC 研究所は、本プロジェクトの「スマートバイオ産業・農業基盤技術」において、食の生産・流通・消費を最適化するデータ連携プラットフォームの社会実装を目指して研究開発を行っています。

慶應義塾大学 SFC 研究所は、株式会社ワイヤレスゲート（本社：東京都品川区 代表取締役社長 CEO：濱 暢宏）、株式会社ソーシャル・エックス（本社：東京都渋谷区 代表取締役：伊佐治 幸泰・伊藤 大貴）、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ（東京都新宿区 理事長：湯浅 誠）、第一交通株式会社（本社：大阪府枚方市 代表取締役：工合田 修身）と連携し、大阪府枚方市の子ども食堂支援事業における「寄付希望者と子ども食堂のマッチング業務」と「食材等の配送業務」の DX 化に関する取り組みにおいて、「スマートフードチェーンプラットフォーム」を活用した実証実験を、2022年2月3日から開始します。

### 実証実験のイメージ



実証実験の詳細は別紙をご覧ください。

※本実証実験は、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（管理法人：生物系特定産業技術研究支援センター）によって実施します。

※本プレスリリースは、株式会社ワイヤレスゲート、株式会社ソーシャル・エックス、大阪府枚方市、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ、第一交通株式会社と同時に、新聞各社社会部等に配信しております

### 【本件についてのお問合せ先】

慶應義塾大学環境情報学部 神成淳司研究室

E-mail: [kaminari-core@sfc.keio.ac.jp](mailto:kaminari-core@sfc.keio.ac.jp)

### 【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)

T E L : 0466-49-3436

F A X : 0466-49-3594

## 別紙

### ■実証実験までの経緯

株式会社ワイヤレスゲート（以下、ワイヤレスゲート社）は、逆プロポ（官民共創によって新規事業を生み出す株式会社ソーシャル・エックスのサービス）を活用し、大阪府枚方市と株式会社ソーシャル・エックスと子ども食堂支援事業における課題解決の協議を重ねて参りました。枚方市は、現在 19 団体 21 箇所※1 で運営されている子ども食堂が、市内の全ての小学校区（45 校区）で実施されることを目指しています。そのための課題の 1 つが食材寄付者（個人・法人）と子ども食堂とのマッチングであり、食材の配送でした。

全国の子ども食堂を支援している認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ（以下、むすびえ）によれば、配送や宅配の課題は大阪府枚方市に限ったことではなく、全国の子ども食堂の共通課題でした。ワイヤレスゲート社とむすびえは、枚方市での実証実験の成果を全国展開することを見据えた協議を開始。むすびえも本実証実験に参画することとなりました。

更に、食材等の配送業務の支援としては、タクシー車両にて有償貨物運送※2 を行うことで、タクシーの有する機動力を活かし、課題であった食材の適切なタイミングでの提供が可能となることを考え、ワイヤレスゲート社は枚方市にて事業活動を営む第一交通株式会社に協力を要請し、第一交通株式会社にて国土交通省に貨物自動車運送事業法の許可の取得等を経て、本実証実験への参画となりました。

また、慶應義塾大学 SFC 研究所は、本実証実験の成果の全国展開を見据え、「スマートフードチェーンプラットフォーム（SFP）」を活用した食品ロス削減に資する仕組み構築の可能性の検証を連携して実施します。

### ■実証実験の概要

場所：枚方市内

期間：2022 年 2 月 3 日～2022 年 3 月 31 日（但し、3 月 1 日以降は実証実験の振り返り）

参加者：枚方市内の子ども食堂 4 団体（樋之上こども食堂様、子ども食堂すがはらひがし様、子どもいきいき笑顔食堂様、いまここ子ども食堂様）

食材寄付者：（生活協同組合おおさかパルコープ様、他複数団体と調整中）

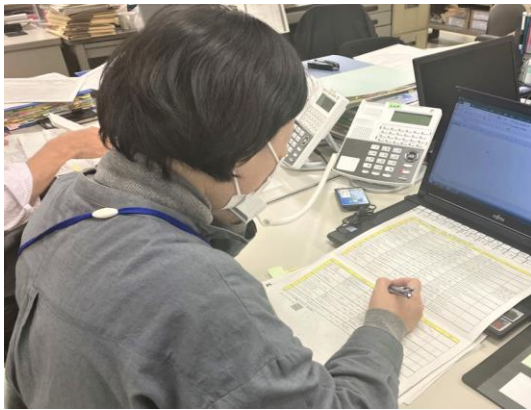
内容：

- ① 食材寄付者が寄付食材を実証実験専用ウェブサイトに登録
- ② 子ども食堂が実証実験専用ウェブサイトログインし、寄付食材一覧を閲覧
- ③ 子ども食堂が電話等で食材寄付者に提供希望の連絡をし、食材授受の合意形成
- ④ 子ども食堂がタクシーを手配
- ⑤ タクシーが食材寄付者から寄付食材を受け取り、そのまま子ども食堂に配送（有償貨物運送）
- ⑥ 配送料はワイヤレスゲート社「こども食堂応援 Wi-Fi for 枚方市※3」の寄付を活用（不足分は別途充当）

主な検証項目：

- ・従来は枚方市職員が介在して電話やメール等で食材寄付者と子ども食堂のマッチング業務を行っていたが、①②③によってどの程度の効率化が得られるかの検証
- ・従来はマッチング業務後に配送手段がないために食材等の授受ができていなかった事案を④⑤⑥によってどの程度の受け渡しが成立するかの検証しております。

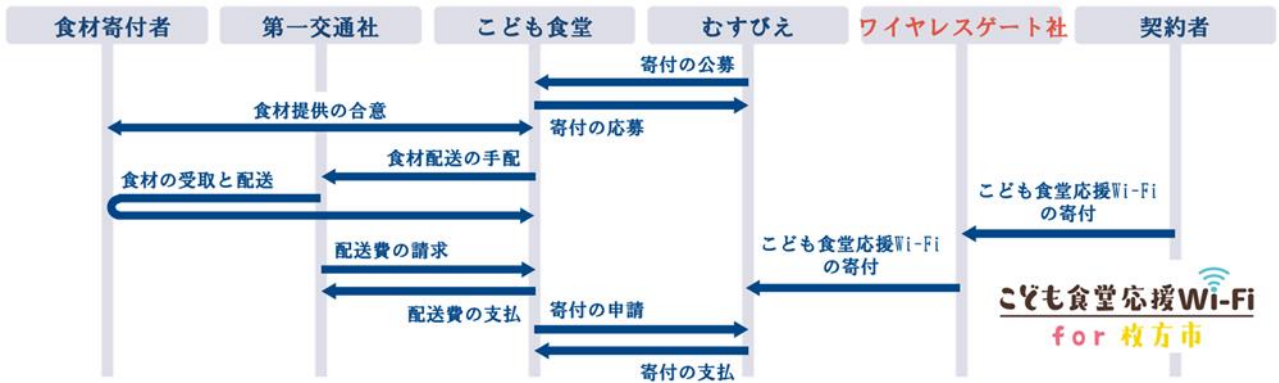
Before: 枚方市職員がマッチング手配している様子



After: マッチングシステムのイメージ



▶▶▶ 枚方市の子ども食堂支援事業DX化の流れ



(※1) 枚方市が補助金を交付している子ども食堂の数

(※2) 貨物自動車運送事業法の許可の取得等によって、タクシー事業者が食料・飲料の宅配業務を行うことができる措置

(※3) 契約者からの寄付金を子ども食堂支援に役立てる社会貢献型の通信サービス。官民共創にて商品化。地域に根差したブランド展開として「for ●● (自治体名)」を本実証実験から開始。

詳細はこちら (<https://minnano-rakuraku.com/kodomoshokudowifi/hirakata/>)

